

中国の輸出許可制度の導入により相場は上昇へ

タングステンの中間原料・APTの国際相場（バラタングステン酸アンモニウム、ヨーロッパ・アメリカ）は、今年1月まで330ドル/Mtu前後で推移していたが、最大生産国の中国が2月より輸出規制の強化を実施したことで反発し、足元では360ドル近くまで上昇している。需要面では、主用途の超硬工具が中国経済の低迷や自動車の不振で盛り上がりや欠く一方、審査が長期化し出荷が滞れば供給懸念が強まり、相場がさらに上昇する可能性もある。タングステンの中間原料・合金鉄・スクラップを長らく取り扱ってきたNIC Resourcesの西野元樹社長に今年4~6月の相場見通しを寄稿してもらった。

APT相場は中国の輸出規制の強化で3年ぶり高値

タングステンの中間原料であるAPT（CIFロッテルダム/バルティモア）の国際相場は、足元で345~370ドル/Mtuとなり、2022年4月以来、約3年ぶりに中値ベースで350ドルを超えた。今年1~3月の相場予測（1月16日号）では、24年末の320~340ドルからスクラップ相場の高騰に伴うリサイクル品のコスト上昇によりAPTのスポット購入が増え、325~360ドルへの上昇を予想していた。だが、実際にはそれを超える展開となった。この背景には、2月4日に中国政府が導入したAPT、YTO（酸化タングステン）、WC（炭化タングステン）粉などタングステン関連製品への輸出許可制度の影響がある。

輸出承認は4月末~5月初旬見通しも長期化の可能性

2月末から3月初旬にかけて、中国の輸出者による輸出申請が始まったが、現在も商務部で審査中であり、まだ承認は下りていない。商務部のサイトによると、審査期間は45営業日となっており、順調に進めば4月末から5月初旬に期限を迎える見込みである。

期限前の承認の可能性も残ってはいるが、24年9月に同様の輸出許可制度が導入されたアンチモンでは、期限を過ぎてほとんど承認が下りず、その影響で金属アンチモンの相場は足元で24年9月時点の水準から2倍以上の56,000ドル/tまで上昇している。

アンチモンはタングステン同様に中国の市場シェアが高いレアメタルであるが、中国のアンチモン精鉱ベースでのシェアは50~60%であり、中国以外での生産も40~50%ある。また、製錬能力も中国以外に多くあるため、中国からの供給が止まっても他の地域でカバーすることができ、中国からの供給が止まった分、中国外からの供給が増え、市場で活発な取引が行われた結果、価格が大きく上昇した。

西側メーカーはWリサイクル強化も原料供給に懸念

一方、タングステンの場合、中国の精鉱シェアは80%以上に達し、さらに残りの20%の中国以外での生産の約半分を中国が購入している。そのため、西側製錬メーカーが使用できる精鉱は全体の10%程度しかなく、くわえて利用可能な原料はスクラップからのリサイクルに限られる。

大手需要家は川上から川下までの一貫した体制を持ち、リサイクル能力を強化しているため、現時点ではまだ原料在庫の枯渇は発生していない。だが、中国原料への依存度が高い中小規模の需要家では、今後深刻な原料不足が生じる可能性がある。

輸出許可が下りるまでは、中国からのAPT、YTO、WC粉などの新規オファーはなく、量は多くはないが、輸出許可制度の対象となっていないタングステン酸やAMT（メタタングステン酸アンモニウム）などの高値オファーが相次いでいる。また、西側製錬メーカーのほとんどが大手需要家グループに属しており、外部へのAPTやYTOの供給余力は大きくない。そのため、中国外でAPTやYTOの在庫を持つトレーダーは相場の動向を見極めながら、販売を控えている状況である。

輸出審査の進捗次第で相場は\$400に迫る可能性も

今後、中国の輸出許可申請が長期化し、新規輸出が滞ると、在庫が減少した需要家がスポット購入を活発化させ、高値でのオファーを受けざるを得なくなる可能性がある。その結果、荷動きが再開し、相場はより高値圏で推移すると考えられる。現時点では、中国の輸出許可制度がどのように運用されるかを見極める段階であるが、仮に輸出許可が順調に下りるようになったとしても、スクラップや精鉱などの製錬原料への需要は一層高まり、需要家も在庫確保の動きを強めることが予想される。

これらの要因が相場の上昇を後押しし、4~6月のAPT国際相場は足元の上昇傾向を継続し、さらに高値をうかがうと予想する。2016年以来となる中値ベースでの360ドルはすでに射程圏内にあり、2013年以来12年ぶりに400ドルに迫る可能性も出てきた。